　　教育情報化教材論⑤

A201415白井智

**・自分のeラーニングに必要な評価**

私は、eラーニングは「自分で学び方や頻度を選べるインターネットを活用した教育システム」だと考える。

そんなeラーニングに求められる評価として、暗記中心の内容なら定着を確認するテストとポートフォリオを併用すること、演習中心の内容なら類似の内容を演習してもらうテストとポートフォリオを併用することが良いと私は考える。なぜなら、ポートフォリオを用いて学習の過程について評価したり、テストを用いて理解度を評価したりすることによって、学習者が身に付けたい能力をどのように、そしてどれほど身に付いたかを把握することができると考えるからだ。

以上のことから、私はインターネットを活用して多くある教材から自分の習得状況や目標をもとに選び、その教材を用いて学習することで身に付いていなかったが目標のために必要な能力を身に付け、それをテストやポートフォリオを用いて評価することだと考える。

**・類似の事例**

私のこのようなeラーニングの定義に合う事例として、東進衛星予備校の映像授業があると考える。

具体的には、例えば、数学の2次関数を学習したいと考えたとき、様々な先生が教えている授業映像があったり、様々な書き方のテキストがあったりと、学習者の理解度や志望大学によって学び方を選ぶことができる。また、映像授業などのため、学ぶ頻度や時間や場所も学習者によって決めることができる。

さらに、学習の理解度を把握する手段として、各授業の後に、暗記中心の内容なら定着を確認するテストがあり、演習中心の内容なら類似の問題を解答してもらうテストがあるため、知識や能力が入試の状況でテストされるやり方を再現している。さらにそのテストには、それぞれ目標点が定められていて、その目標点を超えないと次の教材を利用できないようになっているため、理解していない状態で進むことができないようになっている。

さらに、それとは別に各教室に配当されている担当者がポートフォリオから学習活動の過程を見て指導したり相談に乗ったりすることで、テストだけでは図ることが難しいことも把握することができる。

以上のことから、東進衛星予備校が、「自分で学び方や頻度を選べるインターネットを活用した教育システム」として類似の事例だと考える。